

2023年12月2日、公民館講座「喜界島のジオを知る体験教室」の最終回が開催されました。この講座では喜界島の成立や自然、喜界町が認定を

目指すジオパークのことを静かに学ぶのではなく、元氣よく公民館の外に飛び出して海にサンゴを見に行ったり、島の特産品であるゴマの収穫を体験したりして、五感を使って元氣に喜界島の大地の恩恵を学んできました！そして、今年度の講座の最終回は、喜界島独自のサンゴ礁文化を学ぶために、喜界島の代表的なサンゴ礁文化のひとつである「サンゴの石垣」の修復に挑戦しました！

喜界島ではサンゴの石が家の礎石やサンゴの石垣などに使われ、神様として祭られている集落もあります。また、隆起サンゴ礁の地形を利用して魚を採るなど、昔から島の人たちは、サンゴやサンゴ礁生態系の恩恵を多く受けて生活してきました。そして人々は、喜界島独自の自然環境に適応しながら、

独自の「サンゴ礁文化」をつくりあげてきたのです。



修復を行った場所は、志戸桶集落の県道沿いにある石垣です。崩れてしまった石垣を、昔の姿に復元してほしいという集落の方の要望があり、喜界島のジオを知る体験教室で修復のお手伝いをさせていただくことになりました。石垣の修復には公民館講座の受講

生と、若手の強力な助っ人としてサンゴ留学生が参加しました！サンゴ留学生は、島外から来て寮生活をしながら喜界高校に通っています。現在一学期として6名が在籍し週に2回、喜界島サンゴ礁科学研究所の指導の下、研究活動をしています。今回は、活動の1環としてサンゴ礁文化を学ぶため、石垣の修復を体験しました。

サンゴの石を積んで石垣を築くためには、外側に大きな石を組み上げてその間をグリ石と言われる小さな石で埋めて行きます。大きな石はなかなか上手にかみ合わせることができませんが、力を合わせて回転させて試行錯誤を繰り返すと、石がピタッとはまるようになります。それを繰り返して、サンゴの石を高く積み上げて行きました。

喜界島では、台風や冬の季節風の対策として、屋敷囲いとして石垣を作り、今なお利用されています。しかし現在では、石積みが崩れてもそのまま放置されることが多くなり、コンクリートのブロック塀などに代わっている場所もあります。昔は、島に石を積む職人が多くいたそうですが、今では専門職の方はいらっしやらず、サンゴの石垣が減少する要因になっているようです。私たちは、この石垣修復を通じて、

喜界島のサンゴ礁や文化について学ぶとともに、その課題についても知ることができました。喜界島ジオパーク（構想）では、今後もこのような島のサンゴ礁文化を保全する活動に取り組んでいきたいと考えています。

この講座では一年を通じて、喜界島の成立や大地の恵みを体験しながら学び、島の成立に関わる自然の恩恵を深く理解する機会となりました。来年度も公民館講座「喜界島のジオを知る体験教室」を開催する予定です。ぜひ、講座に参加して島の自然や文化を体験しながら、ジオパークを通じて新たな喜界島の魅力を発見してみましよう！

